

中国経済情報 2021年3月号

Summary

伊藤忠拠点が見た中国経済の現状（2021年2月調査）

伊藤忠総研は2月、伊藤忠商事の中国各拠点を対象に景況感アンケート調査を実施、その結果景気は全体として「中立」状態にあることが確認された。前回の調査（2020年8月）と比較すると、3分の1の拠点を判断が改善し、悪化した拠点はなかった。新型コロナの感染が基本的には抑制され、回復の動きがさらに広がっている様子が窺われる。ただ、新型コロナの局地的発生や春節休暇期間の移動自粛要請によって、飲食や旅行のような「接触・対面型」のサービス業は影響を受けている。地域別には、東部ではオンラインサービスを中心に三次産業が回復を牽引、二次産業でも政府が力を入れるハイテク分野は好調である。東北部は新型コロナの局地的発生が散発、その影響で三次産業回復の足取りが重い。西部は自動車の回復や、ハイテク産業の成長により二次産業が好調で、順調に回復が進んでいる。

【内容】

1. 伊藤忠拠点から見た中国経済の現状
2. 最近の新型コロナ感染者増と春節移動制限の影響
3. 各地域経済の動向
 - (1) 東部地域
 - ・東部地域の実態
 - ・三次産業の牽引で順調に回復継続
 - (2) 東北部地域
 - ・東北部地域の実態
 - ・新型コロナが三次産業に打撃
 - (3) 西部地域
 - ・西部地域の実態
 - ・二次産業が堅調に拡大し回復進む

上席主任研究員
須賀 昭一
(03-3497-3678)

suga-s@itochu.co.jp

伊藤忠中国拠点から見た各地域の経済情勢

地域	評価(5段階)										
	2018年		2019年		2020年		2021年				
	2月	6月	1月	7月	3月	8月	2月				
東部	北京市	→ 3	→ 3	→ 3	→ 3	→ 4	→ 3	→ 3			
	上海市	→ 3	→ 3	→ 3	→ 3	→ 4	→ 3	→ 3			
	山東省 青島	→ 3	→ 3	→ 3	→ 3	→ 4	→ 4	→ 4			
	江蘇省 南京	→ 2	→ 2	→ 2	→ 2	→ 4	→ 3	→ 3			
	広東省 広州	→ 2	→ 2	→ 2	→ 3	→ 4	→ 4	→ 3			
	深セン	-	-	→ 2	→ 2	→ 4	→ 3	→ 2			
東北部	瀋陽	→ 2	→ 2	→ 2	→ 2	→ 3	→ 4	→ 3			
	遼寧省 大連	→ 2	→ 2	→ 2	→ 2	→ 3	→ 3	→ 3			
中西部	重慶市	→ 2	→ 2	→ 3	→ 3	→ 4	→ 4	→ 3			
	四川省 成都	→ 3	→ 3	→ 3	→ 3	→ 4	→ 3	→ 3			

(注) 1: 極めて良好、2: やや良好、3: 中立、4: やや悪い、5: 極めて悪い

1. 中国経済の現状

(1) 伊藤忠拠点から見た現状

伊藤忠総研は、2月中～下旬にかけて、伊藤忠商事の中国10拠点(3直轄市と6省7都市)に対し景況感についてのアンケート調査を実施した(今回で11回目、前回は2020年8月実施)。

結果を概観すると、景気判断を「中立」とした拠点数は8、「やや良好」は1、「やや悪い」は1で、全体としては「中立」の状態にあると言える。前回(2020年8月)との比較¹では、3分の1の拠点を判断が改善し、悪化した拠点はなかった。回復の動きは半年前より広い範囲に拡大しているようである。

(2) 経済指標から見た現状

こうした状況は、マクロ経済指標からも確認できる²。2020年1～12月期の実質GDP成長率は、全国で前年同期比+2.3%と、1～9月期の+0.7%から加速した。地域別に見ると、西部は1～9月期(前年同期比+2.0%)、1～12月期(+3.4%)と全ての地域の中で最も高い成長率を維持している。その背景として、新型コロナ発生後から局地的感染も起きず、一貫して感染の影響が小さいことが指摘できる³。一方で、中部は新型コロナ発生源の武漢市を省都とする湖北省が大幅に減速したことから、1～3月期(▲9.9%)は減速幅が最も大きかったが、経済の柱である二次産業⁴の回復に支え

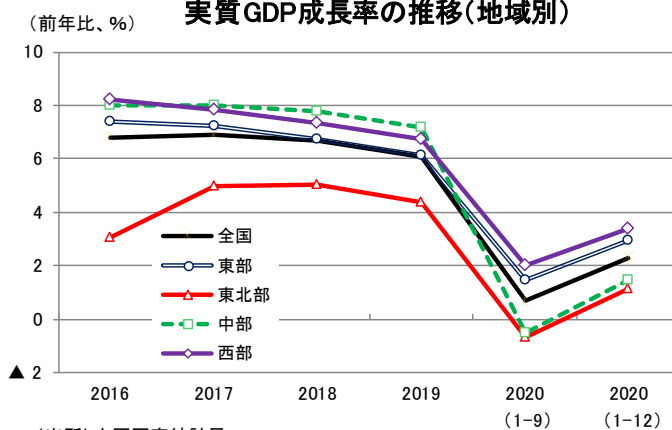
られ、1～9月期(▲0.5%)には減速幅が大幅縮小して東北部より高い伸びとなり、1～12月期(+1.5%)にはプラスに転じた。新型コロナ発生地域である中部に成長率を抜かれた東北部も、すべての地域の中で

伊藤忠中国拠点から見た各地域の景況感

地域	評価(5段階)							
	2018年		2019年		2020年		2021年	
	2月	6月	1月	7月	3月	8月	2月	
東部	北京市	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 4	➡ 3	➡ 3
	上海市	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 4	➡ 3	➡ 3
	山東省 青島	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 4	➡ 4	➡ 4
	江蘇省 南京	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 4	➡ 3	➡ 3
	広東省 広州	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 3	➡ 4	➡ 4	➡ 3
東北部	深セン	-	-	➡ 2	➡ 2	➡ 4	➡ 3	➡ 2
	瀋陽	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 3	➡ 4	➡ 3
	遼寧省 大連	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 2	➡ 3	➡ 3	➡ 3
中西部	重慶市	➡ 2	➡ 2	➡ 3	➡ 3	➡ 4	➡ 4	➡ 3
	四川省 成都	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 3	➡ 4	➡ 3	➡ 3

(注) 1. 極めて良好、2. やや良好、3. 中立、4. やや悪い、5. 極めて悪い

実質GDP成長率の推移(地域別)



(出所) 中国国家统计局

¹ 2020年9月30日付『中国経済情報 2020年9月号』

(https://www.itochuresearch.com/ja/uploads/20200930_C.pdf)

² 成長率を主とした各省・直轄市の経済統計は累計値のみ公表のため、以下では原則として、2020年1～9月期と1～12月期(通年)を比較する。各省・直轄市の個別の動きは最終頁参照。

³ 新型コロナ発生後、2021年3月24日までの一省あたりの有症感染者数(累計)は、西部では365人と全国平均2,907人を大幅に下回っている。

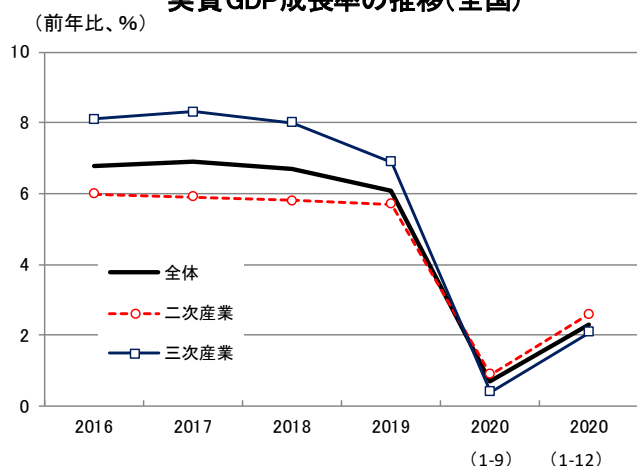
⁴ 名目GDPに二次産業が占める割合(2019年)は、東部(38.9%)、東北部(34.4%)、中部(41.8%)、西部(37.9%)。

成長率が最も低い状況が続くものの、1～12月期（+1.1%）には伸びがプラスに転じるなど着実に回復は進んでいる模様である。

なお、全国の成長率の産業別内訳をみると、当初、三次産業と比べてコロナの影響を大きく受けた二次産業（2020年1～9月期前年同期比+0.9%→1～12月期+2.6%）の回復が顕著である。工業生産統計で主な内訳を見ると、汎用機器（+2.6%→+5.1%）、自動車（+4.4%→+6.6%）、化学品（+1.5%→+3.4%）、特殊機器（+5.1%→+6.3%）、パソコン通信機器（+7.2%→+7.7%）など幅広い分野で伸びが高まっているほか、半導体（+35.3%→+37.1%）は大幅な生産拡大が続いている。

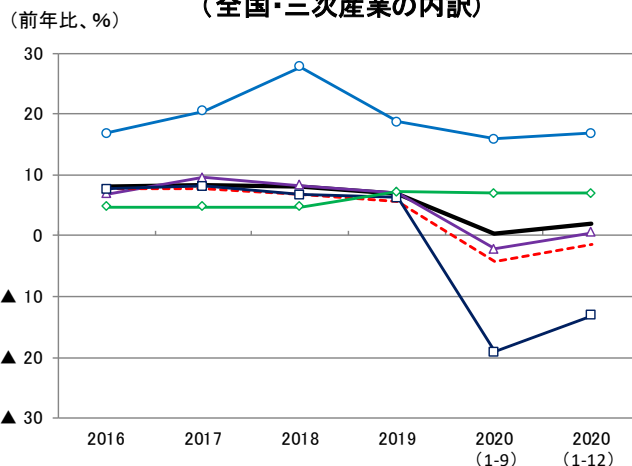
三次産業（+0.4%→+2.1%）も回復が続いているものの、業種別では異なる傾向が見られる。情報通信・ソフトウェア（+15.9%→+16.9%）や金融（+7.0%→+7.0%）は堅調な伸びを維持している一方、ホテル・飲食（▲19.1%→▲13.1%）や卸売・小売（▲4.2%→▲1.3%）は回復が続くものの、マイナスにとどまっている。このように、三次産業でも、「接触・対面型」サービスを主に提供する業種は新型コロナの影響を背景として回復が遅れていると考えられる。

実質GDP成長率の推移(全国)



（出所）中国国家统计局
（注）2019年の名目GDPに占める割合は、二次産業39.0%、三次産業53.2%。

実質GDP成長率の推移 (全国・三次産業の内訳)



（出所）中国国家统计局

2021年1～2月の経済指標をみても、全体として回復が続き、経済の正常化は順調に進んでいることが確認できる。ただ、新型コロナの影響で、飲食を中心とした個人消費は回復の足取りが重い状況である⁵。最近の中国経済の動向を左右している要因として、一部地域での新型コロナ感染者数増加（1月）と、春節休暇期間の長距離移動自粛規制（2月）が挙げられる。

以下では、これら要因の中国経済への影響について、伊藤忠拠点が所在する各地域の具体的な様子を横断的に比較し、その後各地域の経済の現状を整理する。

⁵ 詳細は、2021年2月24日付『Economic Monitor』「中国経済：規制強化で感染拡大は抑制も、個人消費や生産活動を下押し（1月経済指標及び春節の動き）」（<https://www.itochuresearch.com/ja/report/2021/1988/>）参照。

2. 最近の新型コロナ感染者増と春節移動制限の影響

2019年末に中部地域の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスは2020年1月下旬～2月上旬に感染が拡大し、全国的に企業の活動停止や移動制限の動きが広がったが、4月には感染は概ね抑制された。その後、一部都市では散発的に集団感染などが発生したが、短期間で抑制されてきた。

最近では、2021年1月に入って東部の北京市、河北省、東北部の吉林省、遼寧省、黒竜江省において感染者が急増した。2月初めには感染は概ね収束したものの、春節休暇期間（2月11～17日）の感染拡大を危惧した政府は、同期間の帰省や旅行などの長距離移動の自粛を要請した。その結果、新型コロナ感染は拡大することなく現在に至っているが、1～2月の一連の動きは、経済の動きに一定程度影響を与えている⁶。

まず、1月の新型コロナ局地的感染について、に新型コロナの感染者が増加した都市の拠点からは「外食意欲が大幅に下がっている」（大連）、「飲食の回復には時間がかかる模様」（瀋陽）と、もともと回復が遅れていた飲食サービスは悪化が続いている様子が窺えた。一方、発生がない都市の拠点からは「飲食の客足は通常に戻っている」（広州）、「外食産業は好調」（深圳）との指摘があり、散発的な局地感染発生の有無によって、飲食サービスの状況は明暗分かれているようである。

一方、2月の長距離移動自粛要請の「観光業」や「交通運輸業」への影響は幅広い地域でみられた。長距離旅行の自粛によって「観光業が不調」（北京、南京、広州、重慶）のほか、移動手段である「鉄道」（上海、南京）、「航空業」（上海、南京、青島、瀋陽）も影響を受けているとの指摘が多く、多くの拠点からなされた（詳細は、各地域の経済状況にて整理）。

ただ、長距離移動者が減少の一方で「自家用車や市内公共機関利用者は増加」（南京、成都）し、「市内の行楽地へ市民が集まり混雑」（北京、上海、南京）、「映画館の出入が大幅増加」（青島、南京、成都）、「ショッピングセンター、飲食店が賑わっていた」（成都）との指摘があり、都市内部での消費活動は一定程度維持されていたようである。そのほか、「当地のスキー場、温泉が人気」（大連）など、長距離の旅行は自粛された一方で、都市近郊への小旅行を楽しむ動きもみられていたようである。

また、例年と異なる春節休暇期間は「麻雀、ゲームやダンベル、エキスパンダー、縄跳びのようなスポーツ用品」（青島）や、「掃除ロボットや自動料理器」（重慶）のような巣ごもり商品がオンライン販売を中心に売れていたとの指摘があった。さらに、「帰省できない独身者のための正月料理セットのデリバリーサービスが活況」（上海、青島、大連、瀋陽、重慶）、「オンラインによる故郷への贈り物が増加」（深圳）のように中国人の生活に定着したEコマースも春節期間ならではのサービスを提供して、消費者の需要を満たしていたようである。

⁶ 2021年2月以降は、新規感染者は海外からの入国者を中心に毎日平均20人程度に抑えられている状況である。

3. 各地域経済の動向

(1) 東部地域

①東部地域の実態

地域別にアンケート結果を詳しくみると、東部において好調な分野は、三次産業では「オンラインサービス」、二次産業では「電子製品・部品」「医薬品」「自動車」が挙げられた。

具体的には、三次産業では、従来に引き続き「E コマース」（北京、上海、広州、深圳）が多く挙げられた。「ゲーム、ライブ配信、映画のような娯楽サービスが好況」（深圳）、「TikTok によるライブ販売が若者に人気」（南京）のほか、「オンライン教育」（北京、上海）が挙げられた。これについては、「塾もオンラインシステムを突貫工事で構築」（上海）の一方、「オンライン化に対応していない私塾は人気低下」（深圳）と、新型コロナ感染が続く中で生まれたサービスが消費者の間で定着し、新たなスタンダードとなりつつある様子が窺える。また、E コマースを支える「物流業は好調」（南京、広州）で、「無人化技術の応用が進み、無人化倉庫、自動運輸システムの導入が加速」（青島）との指摘もあった。新型コロナの影響で、従来進められていた取り組みが加速している一例と言えるだろう。

二次産業では、「5G 基地局関連機器や通信機器の製造が好調」（北京、上海、深圳）、「ここ数年低迷していた機械設備製造が、新型インフラ需要増で好況が続く」（上海）のように、政府が進めるデジタルインフラ整備に関連した業種が政策の恩恵を受けている様子である。「電子部品」では、「半導体の需要が旺盛」（北京、広州）と政府が国産化を進める半導体は引き続き好調のようである。また、「薬品・ワクチン開発や製造が好調」（北京、上海、広州）と、新型コロナ感染が続く中で医薬品の需要の堅調さを示唆する指摘もあった。「自動車」については「日系自動車メーカーが好況」（広州）の一方で、「地場のEV メーカーは不調」（北京）との指摘があった。消費者の成熟化によって、同じ産業でもブランドや品質の違いによって明暗分かれる状況がみられはじめている。

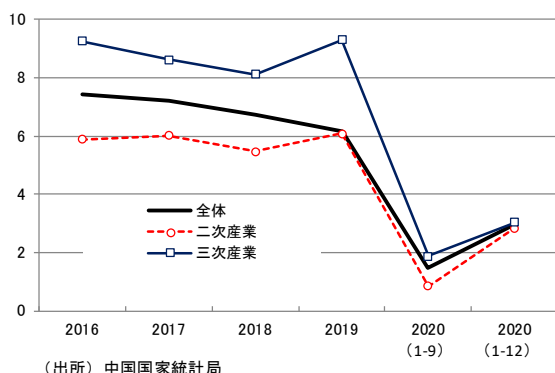
一方、景気が悪い分野としては、前述のように、「観光業」（北京、青島、南京、広州）や「航空業」（上海、青島）が挙げられた。とりわけ「航空業」では「大規模なリストラ実施」（青島）との指摘もあり、これまでの散発的な新型コロナの局地的感染や長距離移動自粛要請により大きな影響を受けているようである。また、「祭りやスポーツなどのイベント関連サービスは中止が相次ぎ打撃」（青島、広州）や、「テレワーク拡大、中小零細企業の事業縮小でシェアオフィスへの需要低迷」（上海）のように、新型コロナ感染は幅広いサービス分野に影響している模様である。

②三次産業の牽引で順調に回復継続

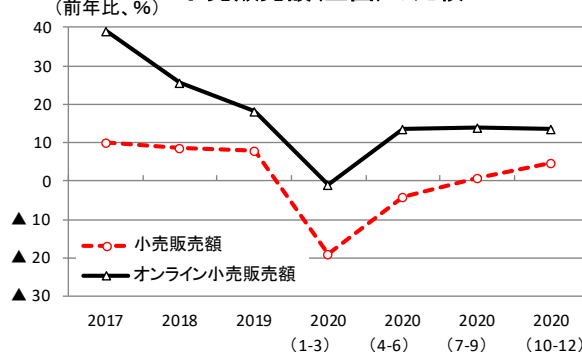
東部の経済情勢をマクロ経済指標から確認すると、成長率は、2020年1～3月期に前年同期比▲6.0%まで大幅に減速した後、1～9月期に▲0.8%、1～12月期には+3.0%と回復が続いている。三次産業（1～9月期前年同期比+1.9%→1～12月期+3.0%）が全体をけん引、二次産業（+0.9%→+2.8%）も遅れているものの着実に回復が進んでいる。三次産業について、東部の拠点から好調との指摘が多かったオンラインの小売販売額（全国）を確認すると、1～3月期は前年同期比▲0.9%と小幅に減少したものの、4～6月期

以降は大幅に回復し、+13%台で推移している。実店舗主体の小売販売額⁷は10~12月期ようやくプラスに転じており、オンライン消費の好調さが際立っている。オンライン消費は新型コロナ感染の影響が軽微であることに加え、感染リスクをはらんでいる「接触・対面型」の消費サービス需要を吸収して成長している様子が窺われる。東部は、全国の三次産業（名目GDP）の5割強を占めるとともに、新しいオンラインサービスの多くを生み出す地域でもある。今回の調査でも、東部の多くの拠点から、ユニークなオンラインサービスの流行や定着が指摘された。今後も東部は中国のオンラインサービス市場を牽引していくと考えられる。

(前年比、%) **実質GDP成長率の推移(東部)**



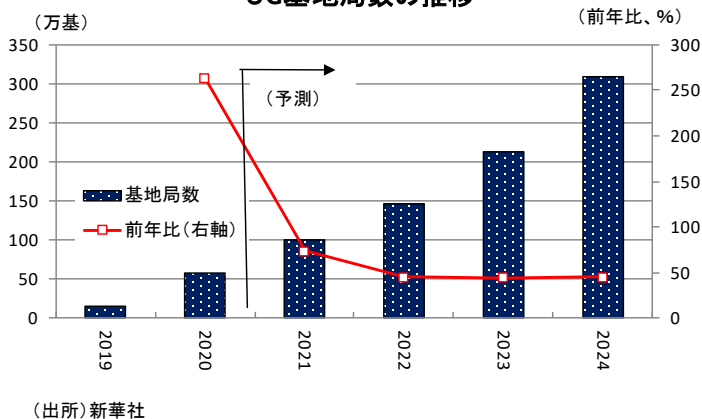
(前年比、%) **小売販売額(全国)の比較**



(注) 小売販売額は、実店舗の売上げが中心だがオンラインの売上げも1割程度含むとみられる。オンライン小売販売額は、オンラインで購入された商品とデジタルコンテンツの売上額。

次に、二次産業のうち、複数の拠点から「好調」と指摘があった新型インフラ⁸について、代表的な分野である5G（第5世代移動通信システム）の基地局数の推移をみると、2020年は58万基と2019年の3倍以上増加した。2021年以降も前年比平均+50%程度での増加ペースでの建設継続が見込まれている。2021年3月の全人代（全国人民代表大会、国会に相当）で決定した「第14次5カ年計画（2021~25年）」でも、今後5年間で新型インフラ構築を推進することが掲げられ、とりわけ5G関連インフラは、交通・物流・エネルギー・医療のような重点分野の質向上のカギ、と位置づけられ重視されている。5G基地局の建設は、北京市、上海市、広東省のような東部の経済水準が高い地域から開始し、その後内陸部への展開が進められている。過剰債務問題の悪化を懸念する政府は当面インフラ投資を抑制するとみられるが、5G関連を含む新型インフラへの投資は堅調に推移し、インフラ投資を支えていくと考えられる。

5G基地局数の推移



⁷ 国家统计局は割合を明らかにしていないが、うち1割程度はオンラインの売上げも含むとみられる。

⁸ 5G、人工知能、クラウド、ビッグデータ、ブロックチェーンのような次世代情報通信技術活用のための設備・施設。

(2) 東北部地域

①東北部地域の実態

東北部で景気が良い分野は、三次産業では「オンラインサービス」、二次産業では「自動車」「電子部品」「医薬・医療」が挙げられた。

具体的に見ると、三次産業の「オンラインサービス」では、「Eコマース」のほか「オンライン医療」「オンライン教育」（いずれも大連、瀋陽）が挙げられた。2021年1月も含め、これまで散発的に局地的感染が発生している東北部では「外食意欲が大幅に下がり、食事宅配ニーズが増加」（大連、再掲）との指摘もあり、新型コロナの影響でオンラインサービスの生活習慣への定着が加速している様子が窺われた。二次産業では、「自動車製造が堅調」（大連、瀋陽）、「半導体の生産拡大」（大連）との指摘があった。また「医薬品・医療器具の製造は新型コロナの影響で受注が増え好調」（瀋陽）とのことである。東部同様、東北部でも自動車産業の回復や半導体産業の成長、そして新型コロナ感染を追い風に医薬・医療産業が好調な様子が窺われる。

一方、景気が悪い分野は、三次産業では「観光業、航空業」（瀋陽）、「ホテル、飲食業」（大連）が挙げられたほか、「イベントサービス、飲食の回復には時間がかかる模様」（瀋陽）との指摘があった。前述のように、これまで新型コロナの局地的発生が続いてきた東北部では、サービス分野回復の足取りは重い。また、二次産業では、「採掘業」（大連、瀋陽）が挙げられた。政府が進める環境対策の影響で、石炭のような環境負荷が高い資源の採掘が抑制されているようである。

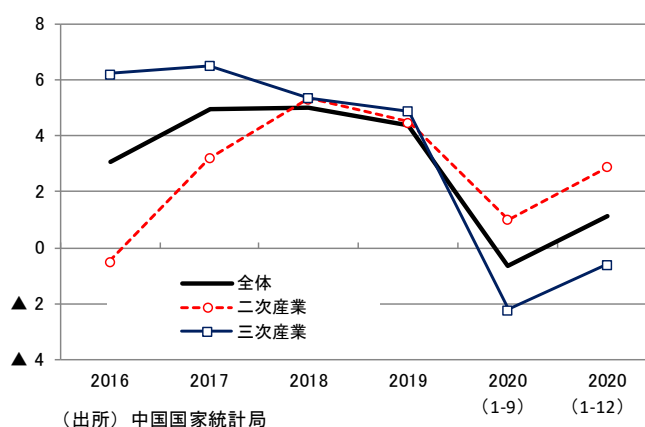
②新型コロナが三次産業に打撃

東北部の経済情勢をマクロ経済指標から確認すると、成長率は2020年1~3月期に前年同期比▲7.6%に減速した後、1~9月期は▲0.6%までマイナス幅が縮小し、1~12月期にはようやくプラスに転じたが、前述の通り、他の地域より回復が遅れている。産業別には、二次産業(1~9月期前年同期比+1.0%→1~12月期+2.9%)の回復が全体を牽引、三次産業(▲2.2%→▲0.6%)は依然として減少が続き、回復ペースは緩慢である。

東北部の名目GDP全体の4割、うち二次産業で

は5割強を占めている遼寧省について、工業生産の主な内訳業種⁹の動向を見ると、石油・石炭加工(1~9月期前年同期比+5.5%→1~12月期+3.1%)の伸びが低下したものの、化学品(+6.8%→+10.5%)、鉄鋼(+2.3%→+2.6%)の伸びが高まり、1~3月期には大幅なマイナスとなった自動車(+1.3%→+3.6%)も順調な回復が続いている。

(前年比、%) 実質GDP成長率の推移(東北部)

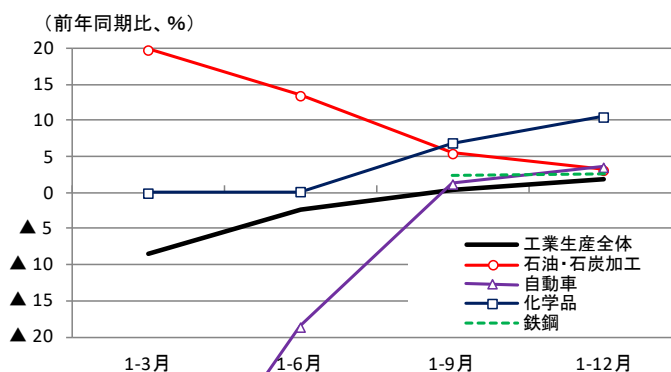


⁹ 工業生産総額に占める割合(2019年)は、石油・石炭加工 19.8%、鉄鋼 12.5%、自動車 11.3%、化学品 6.4%。

このように、着実に回復しつつある東北部であるが、2021年1月の新型コロナ感染の局地的発生を中心地域であったことから、サービス業を中心に三次産業の回復の足取りは重くなっている様子である。

東北部はコロナ発生前までもすべての地域の中で成長率が最も低く、その背景として、国有企業主体の経済構造、投資依存度の高さ、人口流出など構造問題がしばしば指摘されていた。そうした構造問題解決の突破口として、東北部も他地域同様にハイテク産業¹⁰の育成に力を入れている。「第14次5カ年計画」においても、国有企業改革、ハイテク産業育成のほか、国境を接するロシアとの経済協力、農業技術向上、寒冷降雪地域という特性を活かした観光業振興などの東北振興政策が示された。遼寧省を中心とした東北部が、新型コロナの影響を克服し、経済平常化後に構造問題を処理しながら経済成長を続けることができるか注目される。

2020年：工業生産の推移（遼寧省）



(出所) 遼寧統計年鑑2020年

(注1) 鉄鋼の1-3月期、1-6月期の数値は未公表。

(注2) 自動車の1-3月期は▲48.4%。

(3) 西部地域

①西部地域の実態

西部で景気が良い分野は、三次産業では他の地域同様、「オンラインサービス」が挙げられた。具体的には「E コマースが好調で生鮮食品や日用品の売上げが増加」（成都）のほか、「ゲーム産業が好調」（成都）との見方もあった。オンラインサービスの普及は、地域に限らず広くみられるようになっている。二次産業では他の地域同様「自動車」（重慶）が挙げられ、「好調な販売を追い風に生産も急回復」とのことであった。欧州との定期貨物路線が結ばれている重慶では「自動車・オートバイ部品や通信機器の欧州向け輸出が増加」と、「一帯一路」の終着点としてのメリットを活かした動きもみられている。

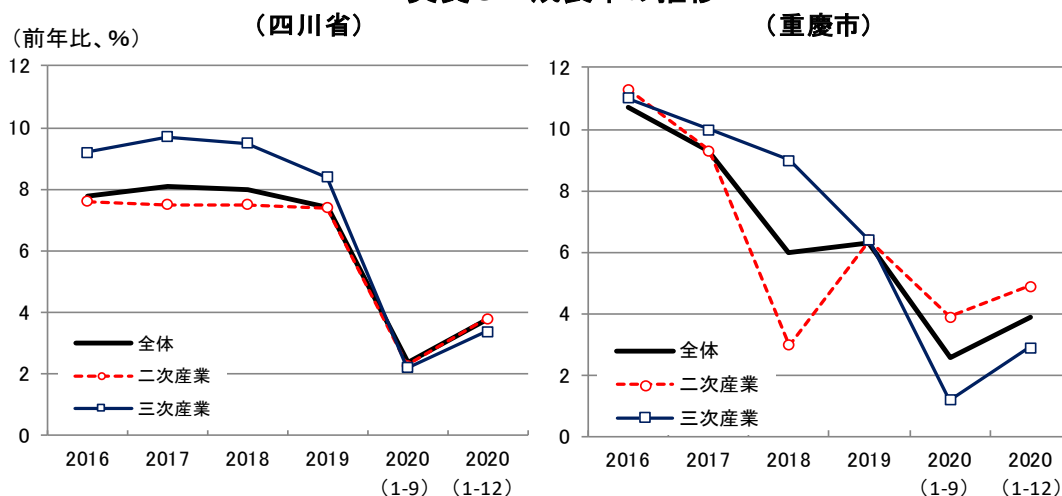
一方、景気が悪い分野は、三次産業の「観光業」（重慶、成都）が挙げられた。「観光業の回復は他業界より遅れている」（重慶）ほか、「民宿の倒産が相次ぐ」（重慶、成都）という指摘もされた。両都市は、近年国内の観光地として人気が高まって成長してきた観光業が、新型コロナによって打撃を受けている様子である。

②二次産業が堅調に拡大し回復進む

西部（四川省・重慶市）の経済情勢をマクロ経済指標から確認すると、成都市を含む四川省の成長率は、2020年1～3月期に前年同期比▲3.0%と比較的小幅に減速した後は回復が続き、1～9月期は+2.4%、1～12月期は+3.8%まで伸びが高まった。回復をけん引しているのは二次産業（1～9月期+2.3%→1～12月期+3.8%）であるが、三次産業（+2.2%→+3.4%）も回復が進んでいる。また、重慶市は1～3月期に前年同期比▲6.5%と、四川省との比較では大きく落ち込んだが、1～9月期+2.6%、1～12月期+3.9%と順調に回復が進んでいる。重慶市でも二次産業（+3.9%→+4.9%）の回復が早く、三次産業（+1.2%→+2.9%）は回復が続くものの、足取りは重い。

¹⁰ 国家統計局によると、医薬製造、航空、宇宙航空機、電子通信、コンピューター、医療機器、情報化学品などを指す。

実質GDP成長率の推移

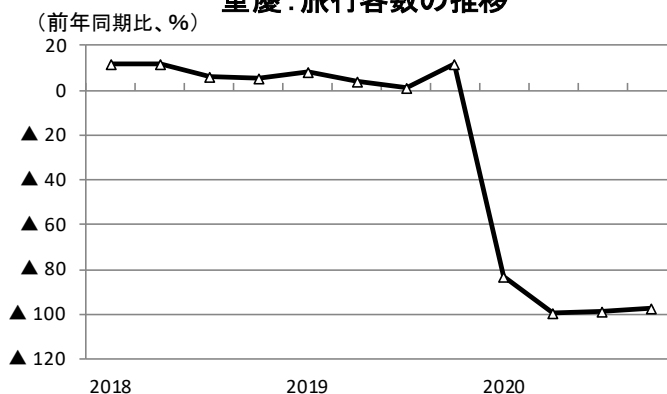


(出所) 中国国家统计局

二次産業が順調に回復している重慶市は、名目 GDP に占める同産業の割合が高く¹¹、その動向に影響を受けやすい経済構造をもつ。二次産業の柱である自動車（1～9 月期前年同期比+8.2%→1～12 月期+10.1%）や PC を主とする電子製品（+12.2%→+13.9%）は、順調な回復が続き、二次産業の回復を牽引している様子である。重慶市が新たな産業の柱として育成を進めるハイテク産業（+11.3%→+13.3%）も堅調に拡大している。重慶市統計局によれば、とりわけ、半導体、液晶パネル、3D プリント設備、スマートウォッチの生産が大幅に増えているとのことである。自動車、機械のような重厚長大産業が集積する重慶市の二次産業の構造と中国経済における位置づけも少しずつ変化しつつあるようである。

三次産業の回復が遅れている重慶市の拠点からは、前述のように新型コロナの影響により観光業が打撃を受けているという指摘があった。実際に、重慶市の旅行客数の推移をみると、2021 年に入って大幅に減少し、10～12 月期でも前年同期比▲97.4%と改善の兆しはみられていない。以前の調査レポート（2018 年 6 月調査¹²）では重慶の観光地が SNS で話題となって賑わっていた様子を報告したが、実際に新型コロナ感染前の 2018～19 年は前年比平均+10%程度で観光客が増加していた。中国では、現在新型コロナの新規感染者は低水準に抑えられており、4 月（清明節）や 5 月（労働節）の連休時は移動規制なしで旅行が可能な見込みである。実際、すでに消費者の間ではそれらの時期の旅行熱が高まり、ホテル予約件

重慶：旅行客数の推移



(出所) 文化旅游部

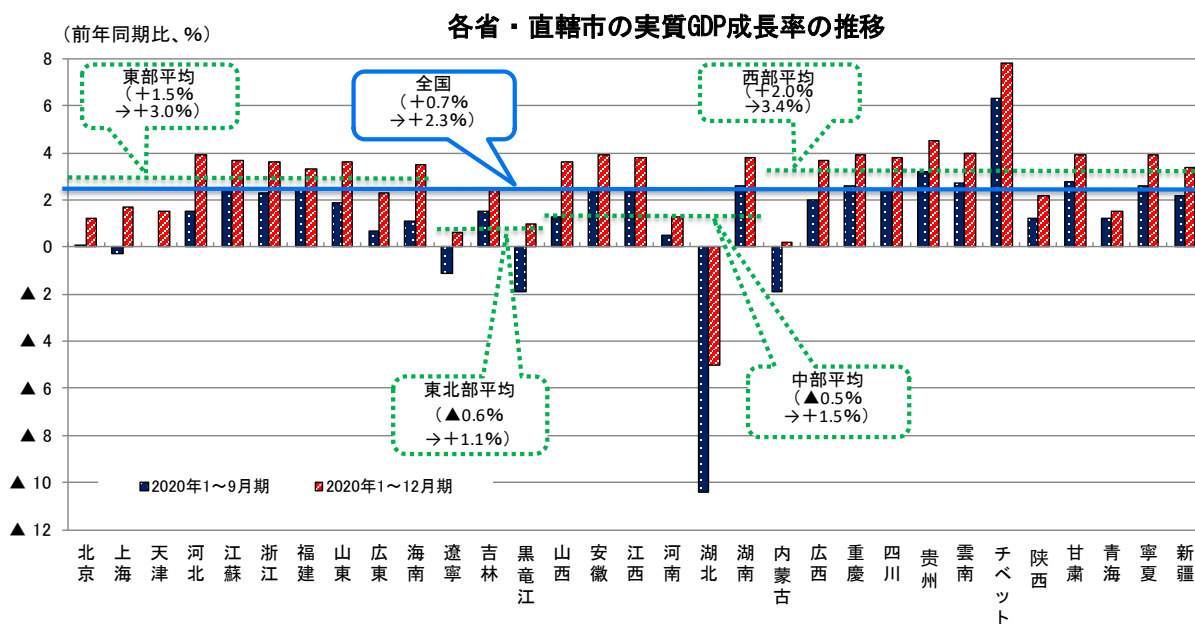
¹¹ 2019 年は 40.2%。なお、西部の平均は 37.9%、全国は 39.0%。

¹² 2018 年 7 月 13 日付『中国経済情報』「伊藤忠拠点が見た中国経済の現状（2018 年 6 月調査）」

(https://www.itochu.co.jp/ja/economic_monitor/report/2018/icsFiles/afiedfile/2018/07/13/20180713_C.pdf)

数も順調に増加している様子である¹³。重慶をはじめとした観光資源豊富な西部の観光地が再び賑わいを取り戻し、観光業が三次産業の柱の一つとして成長していくことが期待される。

【参考】



(出所) 中国国家统计局
 (注) 各地域の()内は加重平均値。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠総研が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

¹³ 例えば、3月後半時点で、大手旅行サイトでは5月の労働節連休時のホテルの予約数はすでに2019年との比較で+53%まで増加しているという(2021年3月28日付『人民网』「五一“連休5天”落地、“国际旅行健康证明”推出，旅游市场能恢复几何」(<http://sh.people.com.cn/n2/2021/0312/c134768-34618480.html>))。